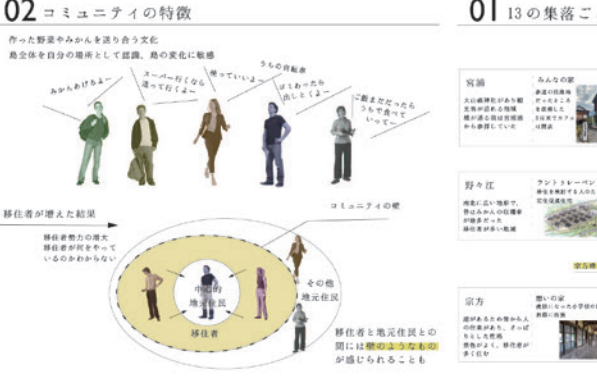


# みかんと移ろう小さな島のものごと

みかんを育てるには、大島から移住者が移住してこなければなりません。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

## 愛媛県今治市大三島

**背景**  
みかんと移住者。大三島には、かつては移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。



### 周辺瀬戸内海諸島

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

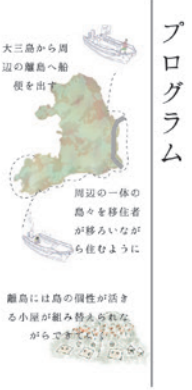
移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

移住者が移住してこなければならなかった。移住者が移住してこなければ、みかんは育ちません。

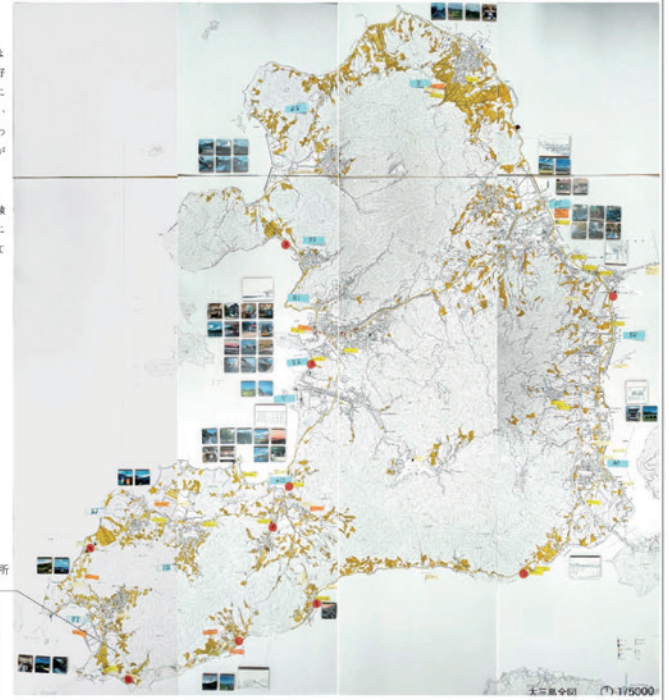




### 01 島を住みこす

島内を何度も散歩し、お気に入りの場所を見つけ出す

大三島に住んでいる人は島全部を自分の家のように住みこしている。毎日散歩して、自分の好きなルートを見つけ出したり、自分だけのお気に入りの場所を探したりする。そんなことは島にいるときにはあたりまえで、貴重なこととは思わなかった。でも東京に帰ってきて自分の居場所が特定の場所しかないということに気づいた。「島を住みこす」ということによそ者でない。自分がお気に入りの場所を探すような体験をどんな時間軸で島に来ている人でも同じように体験する。島の方が集まる小さな公共をひらいていくような提案を行いたい。



島で見つけた自分だけのお気に入りの場所



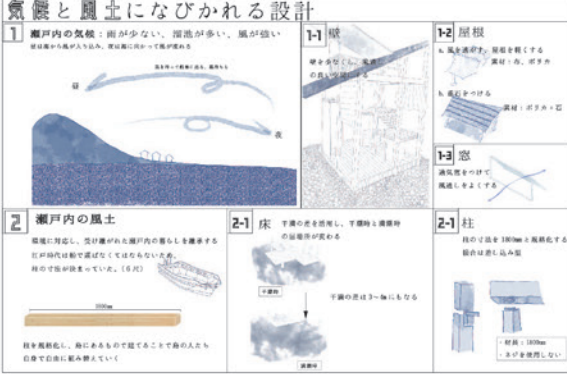
### 02 島らしさを記録する

お気に入りの理由は島らしさが現れた場所だからなのではないか

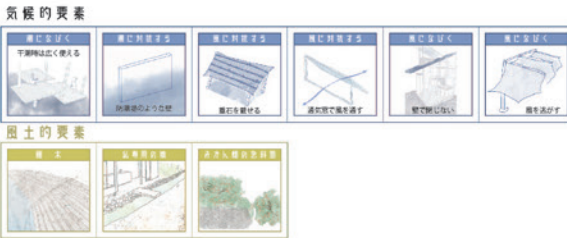


### 03 設計要素を抽出する

島らしさは瀬戸内の特徴的な気候から生み出されているアイコン的に設計に取り入れていく



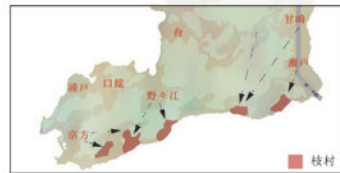
要素をアイコン化して設計に踏襲する



明治  
枝村ができる

人口が集中し、みかん畑を求めて大きな群れ（本村）から分裂するように崖地へと小さな群れ（枝村）を作り出していた

崖地に位置する枝村は、収穫したみかんを陸路で運ぶことが難しく、船によって集荷場まで運んでいた



昭和後期

みかんが売れなくなる

オレンジの輸入自由化により、国内で取れたみかんがなかなか売れなくなる。それに伴う畑の減少や、生活の利便性のよさから枝村を離れ、本村へ戻るように。

現在

移住者が固まって住むように

数名の高齢者が残るだけとなった枝村に、移住者が住むようになった。本村と近い近隣との距離が遠い枝村は、移住者が住むのに格好の場所らしい。こうして移住者がたまって住み、地元住民とは離れて暮らす、アメリカの日本村のような現象が起きていく。

それでも、

残されたみかん畑に通う人がいる

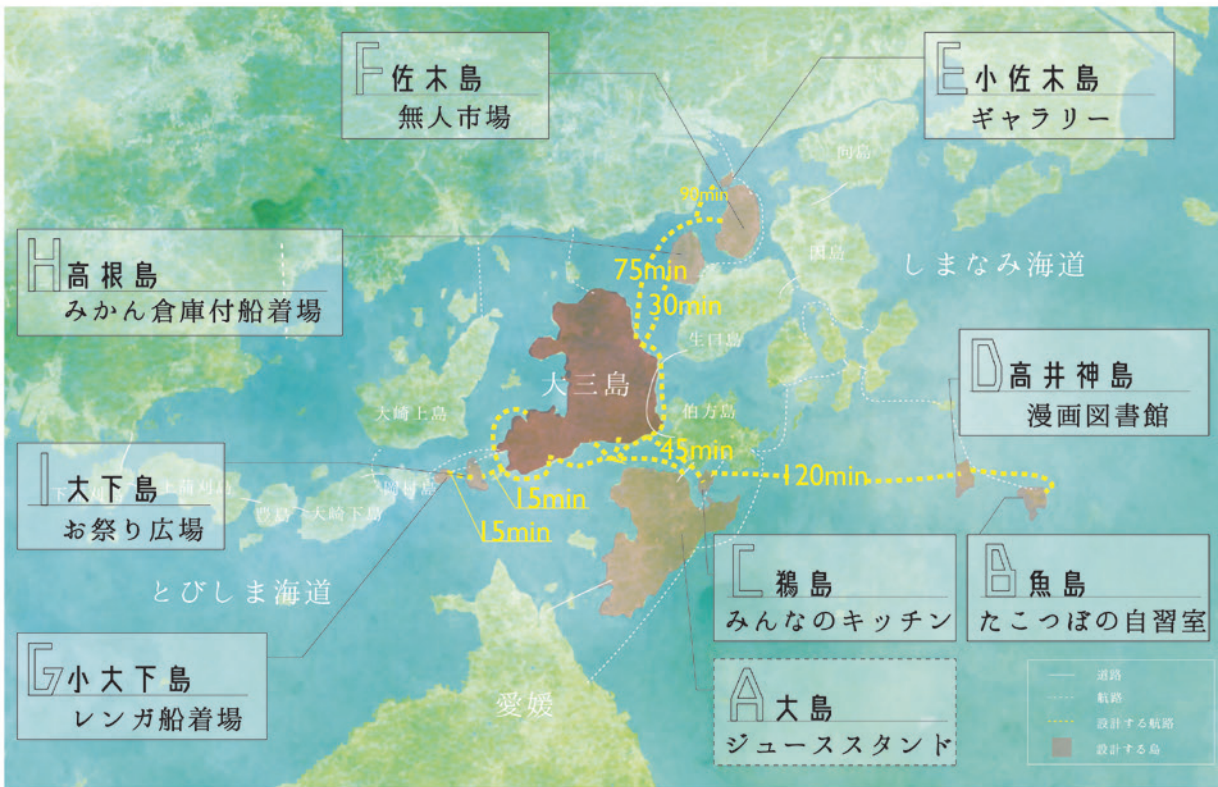
これから  
もう一度船による運搬を復活させる



大島から船を借りる昔大三島で魚をとることが禁止されていたため、大三島には漁船がない

収穫したみかんを崖の上まで運ぶのは大変。また船でないとけない畑もあるため、船を復活させることになる。船を復活させたことで、海からの視点で荒れた畑の現状を見ると、やっぱりもう一度みかんを育てようということになった。





概要

かつては収穫したみかんを船で運搬していた枝村も、現在船は来なくなり、車で運ばなくてはならなくなった。そこで、収穫の時期は船がもう一度この場所に来て、船を転々とし、船によって島内の運搬場まで運ぶ。収穫をしていない時期は、大三島と他の島を結ぶ週2便の定期船と船タクシーとして使用するような、舟運システムを提案する。

船の貸し借り

システムを考える際、船は漁をしていない時間帯の漁船を使用できないかと考えた。かつて大三島で魚を取ることが禁止されていたことから、大三島には漁船がない。そのため、漁業が盛んな大島官庁地域の船を使用する。

収穫期間

みかんを運ぶ手段として使用

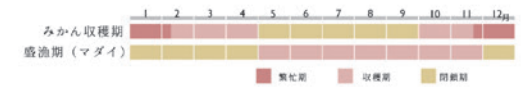
通常期間

大三島と他の島をめぐる船タクシーとして活用  
枝村には移住者が行く。新しい店が多い  
そういった店の売り物を他の島に運搬する

料金：15分 300円、30分 600円（1船料金）

航路：

- ①大三島-小大下島-大下島
- ②大三島-鵜島-高井神島-魚島
- ③大三島-高根島-佐木島-小佐木島



月に一度 大下島にて市場を行う

出張スケジュール

スーパーや売店のない島では、1日2便の定期船によって生活を支えている。定期船には出張美容室、出張マッサージなど、出張○○シリーズがいくつかある。離島に住んでいる人たちは、この出張○○によって生活に刺激をもらい、楽しみをみつけている。  
移住者が多く住む枝村には移住者が行く新しい店が多い。そういった店を他の島へ出張○○として運搬していく。

MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2年後  
耕作放棄地にもう一度みかんを育てる

のために  
短期移住者 (5日間以内)  
地元住民  
が畑の整備をする

枝村に住み、みかん畑を始めた移住者が、新たに移住者を増やすため、耕作放棄地を開耕してみかん畑をつくることになった



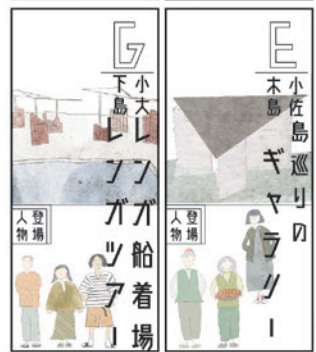
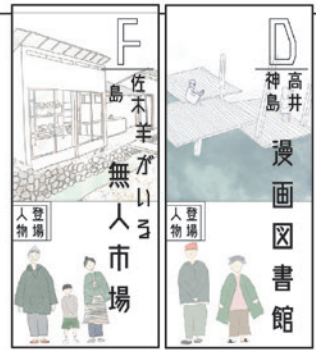
新しくみかんを育てたい移住者が増える  
収穫期はいつもの定期船がみかんの集荷に使われるため、船便が減り、大三島のお手伝いさんとも会えなくなる。



5年後  
みかん収穫期だけ大三島に移り住む人々

しまなみ地域が一体となって、島のいいところと悪いところを補い合いながら島内外関係なく生活する

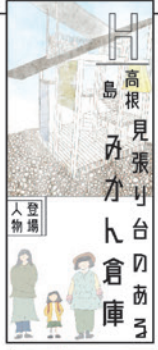
みかん小屋  
収穫の期間は安く泊まれる  
1泊 500円 月1万円  
宿泊所としての開放、みかん加工所として傷がついたみかんを使ってジュースをつくる  
現在使われていないみかん倉庫に点在させる



××年後  
好きな時期に好きな場所に住む、  
流動型移住者が生まれる

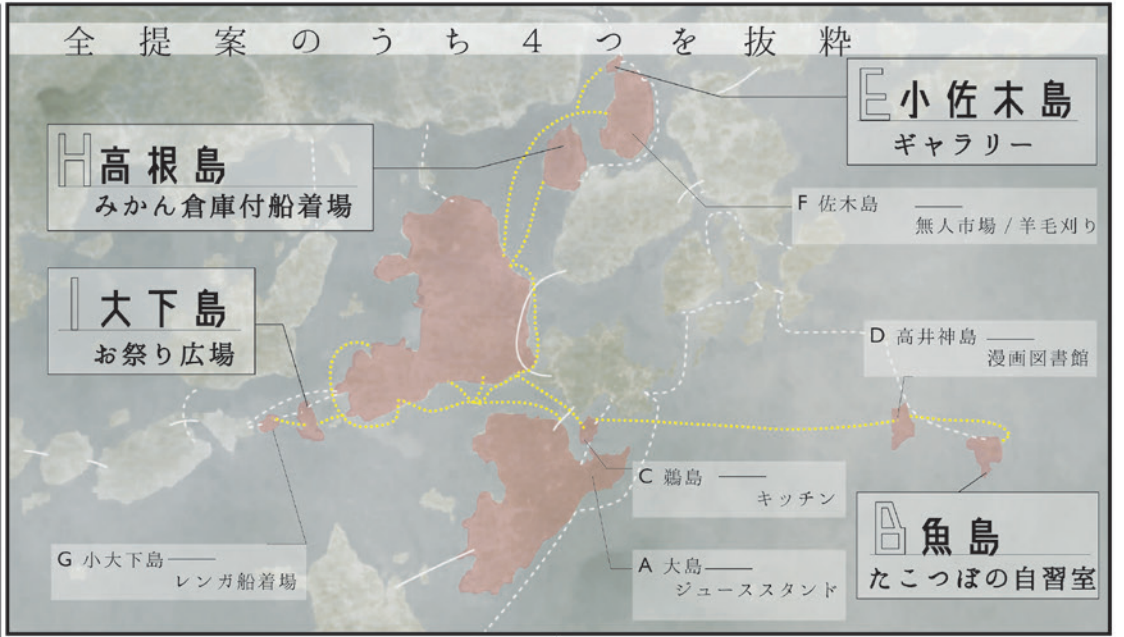


みかん収穫期は大三島に住み、タコが取れる時期は魚島に、それ以外の時は小大下島でツアーの案内をする。



流動型移住者システム  
住民票を持たない  
仮住まいとしていろんな地域を転々とする





## 高根島 みかん倉庫

生口島の道と島の先にあり、横でつながっている高根島では旧高根島は生口島とつながる。そんな、他の離島より比較的生活がしやすいこの島では、みかんが有名だ。愛媛のみかん産地が大半だとすると、高根島は広産地のみかん島とされている。大島からみかんの定期船がやってくる。みかんの意見交換を行う。

**人物場**  
子供を助へてみかんを運ぶお母さん  
みかん倉庫にみかんを運ぶお母さん  
みかん倉庫で働くお母さん

**情報**  
人口：40人  
産業：農業（みかん）  
施設：見聞館（みかん博物館）  
交通：定期船（大島）  
特徴：みかんが主産業で、美しい自然環境に恵まれている。生口島とつながる定期船が生活の便を利便し、生口島とつながる美しい風景が観光客を惹きつける。

**観客との関係：吸引型**

生口島

## 小佐木島 ギャラリー

小佐木島には若い日本画家が住んでいる。大三島からの日用品が並ぶ船着場には、壁に彼女の作品が並ぶ。日用品を買いに行くいのでに作品が見られる。だんだん作品は船着場だけでなく、島中に溢り、小さなギャラリーのような島になった。

**人物場**  
お母さん、お父さん、お母さんに子供を連れて来ているお母さん  
お母さん、お父さん、お母さんに子供を連れて来ているお母さん

**情報**  
人口：7人  
産業：美術（日本画）  
施設：ギャラリー  
交通：定期船（大三島）  
特徴：日本画家が住んでおり、美しい自然環境に恵まれている。日用品を買いに行くいのでに作品が見られる。だんだん作品は船着場だけでなく、島中に溢り、小さなギャラリーのような島になった。

**観客との関係：吸引型**

生口島

## 魚島 たこまーくぼの自習室

たこまーくぼの自習室。大島に遊学する子供には、お母さん、お父さん、お母さんに子供を連れて来ているお母さん。お母さん、お父さん、お母さんに子供を連れて来ているお母さん。

**人物場**  
お母さん、お父さん、お母さんに子供を連れて来ているお母さん  
お母さん、お父さん、お母さんに子供を連れて来ているお母さん

**情報**  
人口：10人  
産業：漁業（たこ）  
施設：自習室  
交通：定期船（大島）  
特徴：たこまーくぼの自習室があり、美しい自然環境に恵まれている。大島に遊学する子供には、お母さん、お父さん、お母さんに子供を連れて来ているお母さん。お母さん、お父さん、お母さんに子供を連れて来ているお母さん。

**観客との関係：移動型**

生口島

## 大下島 お祭り広場

この島にはお祭り好きなおじいちゃんがいる。市場の隣のスペースではたまに音紙を披露してくれる。年に一度のしまみマーケットはこの島で行われる。お祭りの時は大三島のピアストも披露しに来るそう。

**人物場**  
おじいちゃん、おばあちゃん  
おじいちゃん、おばあちゃん

**情報**  
人口：約50人  
産業：観光（お祭り）  
施設：お祭り広場  
交通：定期船（大三島）  
特徴：お祭り好きなおじいちゃんがいる。市場の隣のスペースではたまに音紙を披露してくれる。年に一度のしまみマーケットはこの島で行われる。お祭りの時は大三島のピアストも披露しに来るそう。

**観客との関係：移動型**

生口島